

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100244		
法人名	株式会社のぞみ		
事業所名	グループホーム翔あかなべ 1F		
所在地	岐阜市茜部中島1-38-2		
自己評価作成日	平成28年 8月23日	評価結果市町村受理日	平成28年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kani=true&JgkyosyoCd=2190100244-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人グループの企業理念である「よいものを安く」を福祉事業の中で実践することを目指す。利用者が求めるものは何か？利用者をとりまくご家族や様々な人が望むものは何か？現状の運営状況に改善の余地が大いにあることを自覚しており、より良い施設運営とサービスの提供を実現すべく具体的な改善案の発案や実践を全スタッフが取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の信念として、家族と疎遠の状態にある利用者や、身寄りのない利用者も可能な限りホームに迎え入れている。ホームの利用料は、介護サービスの質を維持しつつ抑制に努め、利用者、家族の負担軽減の一助となるよう努力している。ホームの理念に掲げる地域に根ざし、地域に信頼されるホームを目指している。
職員は利用者の支援を職員都合とならないよう、利用者のペースを何よりも大切にしている。利用者の選択、判断を尊重し、居室へも了解を得てから入室し、優しく丁寧に接している。
利用者は、職員の優しく寄り添う支援によって穏やかに暮らしており、外出先から戻ると利用者自らが「やっぱり、ここが一番いい」と、ホームの居心地の良さを声に出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営する法人の持つ理念を社員レベルのスタッフから実践できるよう、相互に会話する場を持つようにしている。	法人理念とは別にホーム独自に実践に則した理念を定め、ホーム内に掲示している。管理者は毎月開催の職員会議で、理念を実践に反映するよう意識して職員と話し合うこととしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会等に参加している。自治会長には運営推進会議への参加をお願いし、参加できない場合も議事録等で状況を逐一伝えている。	地域の自治会に加入し、本年は自治会の相談を受けてホーム入口に循環バスの停留所設置の協力を行い、地域に貢献した。地域の中・高校生の職場体験を受け入れ、利用者との笑顔の交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に一度、外部の参加者を招き認知症に関わる講習会を開催したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、その中でホーム側の考えや思いを率直に伝えている。ご家族や関係機関からの意見を参考に、運営内容の改善を図っている。	年6回の運営推進会議を開催し、家族、行政が毎回参加して意見を交わしている。会議は水害地域としての対策、ホームの食事の試食会、ホームから課題を提起して参加者の意見収集と、実践の反映に努めている。	利用者の地域の暮らしの継続には、地域のつきあいを深めることが不可欠である。地域に推進会議への参加を促し、会議が地域と協力するひとつの機会となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの通達や運営に関して介護保険課と会話したり、運営推進会議への参加を要請し協力関係を持っている。	ホームから行政に出向いて制度運用等、種々の相談、報告を行い、相互に協力する関係を築いている。行政は生活保護の利用者の様子確認や、職員との意見交換を目的としてホームを訪ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う場合は、家族の了解を得た上で行き記録に残す。玄関の世情は安全管理の都合上やむなく行っている。	利用者の単独離設の事例発生から、安全を優先して現在は出口を施錠している。拘束の必要な場合は職員の話し合いを行い、家族の了解を取って期限を決めて実施しており、職員は拘束による弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度や身元保証を委託するなどの権利擁護面をカバーする援助計画を必要に応じて立案し、実行している。また、関連する情報を利用者の家族などへ積極的に提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時、内容の変更時は個別の会話と説明文書等により理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外にも、苦情受付箱をエントランスに設置し随時受け付けている。 また、日常の会話の中でスタッフが気付いた内容は毎月の会議等で検討し運営に反映している。	毎月ホームの便りを家族に送付の上、家族の訪問時や電話連絡の際に意見を収集している。家族アンケートでのホームの評価は良好であり、家族は信頼して利用者を託している。	職員の伝達ミスから家族の意向が職員に共有、反映されないケースを確認した。家族と職員の信頼関係を損なう事案であり、職員の意思疎通(仕組み作り)について一考願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や、社員対象の検討会等で意見交流の場を持ち、トップダウンではない運営を実践している。	毎月職員会議を開催し、気兼ねなく意見を交換している。本年度は職員から出された「利用者の食事内容見直し」の意見を取り上げ、食事のグレードアップを図ることができた。	複数の職員の入れ替わり、新人の早期退職から、人員の配置が手薄である。入職者の受入れ体制、職員のコミュニケーション、職場環境等を見直し、定着率の改善を望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフとの会話(相談、要望などが話せる場を設ける)をユニットのリーダー・施設長が定期的に行ったり、フロアの状況を把握する等の努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例の会議内で参考文献の読み合わせを行なうなどの勉強会を開催している。 必要に応じて外部研修に業務として参加させたり、新人スタッフに事業所内で介助方法についてレクチャーする場を設けることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との繋がりは希薄である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントに基づきながら環境に早く慣れていただけるよう、スタッフが本人の気持ちや考えを考慮しながら信頼関係が築けるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係作り今までのサービスの利用状況、ご家族の気持ちや考えを受け入れながら関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを確認し何が必要なのか見極め徐々に改善できるように、必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする上で協力しながら作業などをし、信頼関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常時利用者の様子を伝え、家族の思いを受け入れながら職員の考えを伝え、協力しながら支援できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の中で生活するうえで、近隣の美容室を利用したり散歩に出かけるなどしている。また、なじみの肩との面会、外出などの関係がもてるようにつとめている。	ホーム開設当初から利用している美容院との関係は11年目を迎えた。美容院に利用者を送り、職員が迎えに向く馴染みの関係を築いている。昔暮らした地域の知人、勤めた会社の元社長が利用者を訪ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを楽しく過ごせるように工夫している。食事は職員も一緒に楽しく多くの会話を持つようにしたり、利用者同士がうまく関われるようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約が終了したご家族との繋がりは薄くなっている。契約終了事由が死亡か他施設への転居というケースのいずれかである為、ホームからの支援の必要性が薄いこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからそれとなく確認するようにしている。 ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	職員は利用者と寄り添う毎日の支援の中から利用者の思いや意向のヒントを掴み、「介護記録」に記して職員間に共有することとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の背景を知れば知るほど、その人への理解に繋がる。この取り組みを大変重要なことと考え継続して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、繁栄させるようにしている。 職員全員で意見交換、モニタリングやカンファレンスを行っている。	毎月、介護計画のモニタリング(計測)を行い、計測結果を参考に3ヶ月ごとにプランを見直している。利用者の重度化から身体的ケアのプランが多いが、利用者の思いを反映したプランとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや利用者の状態変化は記録に記載し情報共有を徹底している。また、それをもとに介護計画の見直し評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮し、必要なときに必要なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や消防署等の協力を得ることで、利用者の安全な暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じかかりつけ病院を決めている。	3医院と提携し、医師と訪問看護師が連携して利用者の健康管理に努めている。看護師を中心に24時間体制を敷き、適切かつ迅速に対応することとする。外来受診は必要により職員が同席し、医師に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度より訪問看護ステーションとの契約により医療連携体制を確立した。 週一回の定期訪問と臨時の訪問、対応により連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも回復状況等情報交換し、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期における対応について文書を作成し、現在入居者のご家族キーパーソンに説明を行い同意を得ている。	本年から看取りの指針を書面にし、家族に説明の上で同意を確認している。医療関係者はホームの看取りに理解を示し、管理者は、可能な場合は看取りを受け入れることを前提に職員の体制を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて、会議で話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て防災訓練を定期的に行っている。	年2回の内1回は消防署の立会いを受け、防災訓練を実施している。水害被害の多い地域のため、訓練は水害対策、通報、避難、消火訓練を実施し、訓練後は消防署の助言を得ている。	飲・食料の備蓄、災害時の持ち出し備品の整理を望みたい。併せて、従来の通報システムから自動火災報知設備への早期改修、移行を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや状態を察するようにつとめ、さりげないケアを心がけて自己決定しやすい言葉をかけるよう配慮している。	職員は利用者に丁寧に優しく接しており、利用者は安心して穏やかに過ごしている。支援は職員の都合ではなく利用者のペースを尊重し、誇りを損なわないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすいよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日そのときの本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルにつき楽しく食事できるようにしている。	食材配達業者を利用している。調理は利用者の能力を活かし、包丁を使う下ごしらえ、食器洗い・拭きと出来ることを職員と楽しんでいる。飲み込みの難しい利用者は、調理形態をキザミ食やミキサー食に変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、食材を届ける業者の栄養士の方がカロリー計算してくださっている。水分量も一日を通じて確保できるように記録に残し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた毎食後のケアを行い、月に一度、歯科医による居宅療養指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつかい、尿意のない利用者も時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄できるように支援している。 紙パンツなどの汚染有無もチェックしている。	排泄記録を参考に、利用者個々に快適な排泄となるよう支援している。便秘、下痢は必要に応じて医療関係者と相談し、適切に対処している。入居時紙オムツの利用者が、適切な誘導でオムツを外すことができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日をチェックして下剤の量を調整している。 ラジオ体操や水分補給を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けによる意思確認をし、拒否などある場合は時間をずらし再度声をかけるなどしている。	歩行の困難な利用者は、安全を優先してシャワー浴とし、週2回の入浴を支援している。利用者の湯温や長風呂の希望は、可能な限り反映するよう努めている。毎年恒例の菖蒲湯を利用者の楽しみとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調や表情等を考慮し休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方について個別の説明書があり、臨時で薬が追加されて場合も変化を見落とさないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせてその日により違うレクリエーションを行うようつとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難なケースでも、車や車椅子を使用して戸外へ出られるようにしている。 散歩、買い物、地域のイベントなどへの外出支援を行っている。	利用者の重度化や職員の人員不足から、利用者の安全確保を重視した外出を支援している。利用者個々の状態に応じて、日課の散歩、近くの美容院利用、地域の盆踊り、花見、初詣と、可能な外出に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難防止や精算の確実性を重視し、基本的に利用者個人のお金はホームに置かず、立て替え払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望を受け、スタッフが電話を取り次ぐなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日施設内の掃除を行い清潔な環境を維持する他、各居室に飾るカレンダーを各利用者が塗り絵で作ったり、正月・七夕・クリスマスなど季節に合わせた装飾をして季節感のある空間作りに努めている。	昼間、利用者は相性や利用者の身体の介助を考えたリビングのテーブル席に座り、職員も交えて会話を楽しんでいる。ホーム2階には講堂のような広い場所を設け、利用者が一堂に介して音楽療法等の行事を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれるスペースを作ったり、共用スペースの席順を工夫することで、トラブルを防止し、気の合う利用者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪室時にノックするなどプライバシー保護を大切にし、心地よく安心して暮らせる環境作りを支援している。 馴染みの家具や装飾品、家族の写真などを置き、その人らしい暮らしを支援している。	作り付けの洗面台を設け、居室内の身支度、歯磨きも可能である。利用者、家族は自由に化粧品、ぬいぐるみ、家族の写真、孫の絵の作品、遺影、位牌を持ち込んでおり、生活感が漂っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に手摺りをつける、家具や荷物の転倒・落下防止の滑り止めをつける、利用者の居室には見やすいネームプレートを用意するなど、安全面や安心面に配慮した環境づくりをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100244		
法人名	株式会社のぞみ		
事業所名	グループホーム翔あかなべ 1F		
所在地	岐阜市茜部中島1-38-2		
自己評価作成日	平成28年 8月23日	評価結果市町村受理日	平成28年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvCd=2190100244-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人グループの企業理念である「よいものを安く」を福祉事業の中で実践することを目指す。利用者が求めるものは何か？利用者にとりまくご家族や様々な人が望むものは何か？現状の運営状況に改善の余地が大いにあることを自覚しており、より良い施設運営とサービスの提供を実現すべく具体的な改善案の発案や実践を全スタッフが取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営する法人の持つ理念を社員レベルのスタッフから実践できるよう、相互に会話する場を持つようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会等に参加している。自治会長には運営推進会議への参加をお願いし、参加できない場合も議事録等で状況を逐一伝えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に一度、外部の参加者を招き認知症に関わる講習会を開催したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、その中でホーム側の考えや思いを率直に伝えている。ご家族や関係機関からの意見を参考に、運営内容の改善を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの通達や運営に関して介護保険課と会話したり、運営推進会議への参加を要請し協力関係を持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため玄関と階段の扉に施錠している。身体拘束を行う場合は介護記録等に経過や実施状況を残している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設のエントランスに虐待防止や苦情申し立てに関するポスターを掲示している。また、実際の現場の状況に即して速やかに対応改善の指示を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度や身元保証を委託するなどの権利擁護面をカバーする援助計画を必要に応じて立案し、実行している。また、関連する情報を利用者の家族などへ積極的に提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時、内容の変更時は個別の会話と説明文書等により理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外にも、苦情受付箱をエントランスに設置し随時受け付けている。また、日常の会話の中でスタッフが気付いた内容は毎月の会議等で検討し運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や、社員対象の検討会等で意見交流の場を持ち、トップダウンではない運営を実践している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフとの会話(相談、要望などが話せる場を設ける)をユニットのリーダー・施設長が定期的に行ったり、フロアの状況を把握する等の努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例の会議内で参考文献の読み合わせを行なうなどの勉強会を開催している。必要に応じて外部研修に業務として参加させたり、新人スタッフに事業所内で介助方法についてレクチャーする場を設けることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との繋がり希薄である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のヒアリングや初期のアセスメントをもとに、支援体制から日常的なコミュニケーション方法に至るまで配慮して受け入れにあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービス利用状況などを聞き、フロアとしてどのように対応していくかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確認し、改善に向けた支援を提案。信頼関係を築きながら必要なサービスを行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援をするが和される側の意識を持たず、互いに協働しながら和やかに生活していけるようつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝えることで、ご家族と共に利用者を支えていけるようになってきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の時間や頻度に実質制限をかけることで、馴染みの方との関係を持てる環境をつくっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶、食事の時間は職員も一緒にその場につき会話を待つようにしたり、利用者同士の関係が円滑に鳴るよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約が終了したご家族との繋がりは薄くなっている。契約終了事由が死亡か他施設への転居というケースのいずれかである為、ホームからの支援の必要性が薄いこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けや本人の行動の様子から、言葉や表情を通して把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人にとっては小さなことであっても情報を伝えてもらいサービスに繋げていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、行動、言動、小さな変化などから本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心とし、関係者やスタッフの気づきの基ケアプランに反映できるよう専用のフォーマットを作るなど工夫をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に食事、水分、排泄の量や状況、日々の様子や本人の言動などを記録し、全ての職員にそれらを確認するよう指示をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設での習慣やセオリーに囚われず、本人がどうしたいかを軸にして対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長、消防署、近隣の店舗などの協力を得て利用者の安全な暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて家族の受診つきそいに同行して様子や変化を伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度より訪問看護ステーションとの契約により医療連携体制を確立した。 週一回の定期訪問と臨時の訪問、対応により連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人への支援方法を医療機関に情報提供し、家族とも情報交換して退院へ向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期における対応について文書を作成し、現在入居者のご家族キーパーソンに説明を行い同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備することについて会議で話し合い確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に通報、避難、初期消火の総合訓練を行っている。 運営推進会議にて訓練を行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援が必要なときや本人の気持ちを大切に考え、寄り添い、自己決定しやすい言葉かけをかけるようにつとめている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ本人が答えやすいよう働きかけ支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に配慮しながら本人の思いを尊重し、できる限り個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	西洋の乱れや汚れに対しプライドを傷つけないようさりげなくカバーしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなども利用者と共に、職員が利用者と同じテーブルについて楽しく食事ができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの体調と食べられる量を把握し提供している。 水分量は日々の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、その都度誘導などのケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を充分取れるようつとめている。処方された便秘薬もきちんと服用できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人に応じて時間をずらしたり気持ちよく入ってもらえるよう声かけをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りが浅い方には、昼間に活動を促すなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一括保管し、それぞれの薬について詳細を把握、日々の変化もよく見られるよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせてその日により違うレクリエーションを行うようつとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と体調を考慮したうえで散歩など戸外に出る機会をもつようつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難防止や精算の確実性を重視し、基本的に利用者個人のお金はホームに置かず、立て替え払いを行っている。 利用者が外出する場合は、個別に一定のお金を預けて外出先で支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望を受け、スタッフが電話を取り次ぐなどの支援をしている。 また、年賀状などを出す支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日施設内の掃除を行い清潔な環境を維持する他、各居室に飾るカレンダーを各利用者が塗り絵で作ったり、正月・七夕・クリスマスなど時節に合わせた装飾をして季節感のある空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれるスペースを作ったり、共用スペースの席順を工夫することで、トラブルを防止し、気の合う利用者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシー保護を大切に、心地よく安心して暮らせる環境作りを支援している。 馴染みの家具や装飾品、家族の写真などを置き、その人らしい暮らしを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に手摺りをつける、家具や荷物の転倒・落下防止の滑り止めをつける、利用者の居室には見やすいネームプレートを用意するなど、安全面や安心面に配慮した環境づくりをしている。		